



トータルトリックの法則＝どう応用するか？

2020.6.19

何枚フィットしたのかは、自分たちの分はわかりやすいが、オポネントの分については推測の域をでない。例で考えてみましょう：5枚のハートを持ってオープンすると

1H - (1S) - 2H - (3S)

？

となったとききました。よくある場面ですが、どう考えればよいかと言うと：

当方は5-3フィットしたようです。オポネントは5-4フィットしているように見えますね。だからトータルトリック数は8+9=17と推測できます。もしこちらが10トリック取れるならオポネントは7トリックと言うことになりすし、こちらが9トリック止まりなら、オポネントは8トリックと言うことになります。オポネントが9トリックなら、こちらは8トリックとなりますね。もし4Hをビッドしたらと、そのまま相手に3Sをプレイさせたらの結果を比較したチャートにしてみると

4Hビッドして 当方取れるトリック数	当方の取れる 点数	3Sのままにして 相手が取れるトリック数	当方の取れる 点数
10	+420	7	+100
9	-50	8	+50
8	-100	9	-140

これで考えてみましょう：もし4Hという、確かにメイクするときは420点入ってきますが、メイクできないときは-50か-100(ダブルされなかったとして)となってしまう。相手の3Sがメイクするならばこちらは8トリックしかとれないという推定されますから4Hとビッドしても2ダウンはほぼ確実です。バル関係が大きくかかわってきますが、こちらノンバルなら100点献上、バルなら200点献上となります。だまっていれば140点で済むところですし、もしダブルされたら200点、あるいは500点取られることとなります。したがって3Sはおとなしく売り渡すのが賢いということになります。

もう1つの例として5枚のスペードを持っていてオーバーコールした立場だったとしましょう：

(1H) - 1S - (2H) - 3S

(4H) - ?

となってきました。ここでもチャートを作ってみます(次ページ)

4Sをビッドして 当方が取れるトリック数	当方が取れる 点数	4Hのままにして 相手が取れるトリック数	当方が取れる 点数
10	+420	8	+100
9	-50	9	+50
8	-100	10	-420
7	-150	11	-450

これで見ると、相手の4Hがメイクする時は4Sが2ダウンか3ダウンするだろうということが推測されますし、もちろん4Sが出来る時は文句なく良いこととなります。まずいのは相手の4Hが1ダウンだけれどもこちらの4Sも1ダウンという時だけです。これで考えると4Sとビッドする方が良さそうです。

逆の立場つまり自分たちがハートを持ったとしましょう。出来そうもないと思っいても4Hとビッドします。ほとんど相手は4Sと競ってきそうです。4Sに行っていなかったのを行かせてしまったという時もありますが、相手は十分上手で確実にゲームはビッドするペアだと考えれば、こちらが出来そうな4Hには4Sとサクリフェイスしてくると考えて、この場合も自信たっぷりの態度を取って4Hとビッドした方が良いのです。

なお補足ですが、トータルトリックの法則から導き出される重要なことがあります：それは「自分たちが持っているトランプの枚数の分だけビッドして損はない」ということです。つまり自分たちが9枚フィットだったとすると3レベルまでビッドして良いということです。しかもそれを先んじて言うことが大事なのです。もちろんそれがメイクするかどうかは判りませんが、最初の例で4枚サポートがあるとき(つまり9枚フィットした時)3Sという、落ちる時は相手に4Hができるのだから損はないことが多いのです。3Sのせいで行かない4Hに行かせてしまったということは百回に一回もないでしょう。